

2008年11月14日

「コンプライアンス・CSRレポート（2008年7月～9月）」に
対する活性化委員会の見解

関西テレビ活性化委員会

関西テレビ放送株式会社（以下「関西テレビ」という）より2008年10月17日付で視聴者の皆様に公表された「コンプライアンス・CSRレポート（2008年7月～9月）」（以下「レポート」という）について、当委員会はレポートに記載されている内容を仔細に検討した。

前回の見解公表（2008年7月31日付）からの間に、関西テレビは、8月に環境自主行動計画を策定し、環境負荷の少ない社会の実現に向けて努力していく姿勢を打ち出すなど、CSR活動により注力していることが窺える。

コンプライアンス態勢の構築として、リスクマネジメントに関して、9月からは外部の専門家を交えてリスク評価を実施し、リスク管理台帳を完成させる作業を始めているとのことであるが、この取り組みは、企業活動において非常に重要な事項であると認識している。

メディアリテラシー活動についても、様々な場所や機会を用いて、地道に行なっていると見受けられるが、学校の放送部活動の振興などにかかわり、放送の裾野を広げることは、放送の将来の発展にとって極めて重要である。関西テレビには、継続的な活動を期待する。

また、編成・制作部門を中心とした機構改革後も「S-コンセプト」など番組制作に真摯に取り組む姿勢が見られていることは、評価されるものである。昨今の厳しい経営環境の中にあっても、視聴率偏重に陥ることのない番組作りを期待している。

今後は、得意な番組ジャンルを確立し「〇〇なら関テレ」と言われるようなブランド構築を検討されることも考慮されたい。

関西テレビは10月27日の（社）日本民間放送連盟の理事会において、会員活動停止の解除が認められ、完全復帰となったが、今後も全社で弛まない努力を続け、民間放送の模範となるべく、これまでの経験を活かされることを希望する。

なお、当委員会は、3カ月の間に視聴者から寄せられた抗議・苦情についても報告を受け、これを検討したが、重大な人権侵害に該当するものは見受けられない。

最後に委員会では、来年1月の委員会開催時に、本年末までのレポートが公表されることと認識しており、その中で再び報告をされたい。

以 上